

自転車トランジションマネジメントの取組み におけるフロントランナーの特徴分析

松本 潤¹・榎尾 果歩²・山中 英生³・松浦 正浩⁴

¹非会員 徳島大学 工学部 (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島2-1)

E-mail: mjun916059@gmail.com

²学生会員 徳島大学大学院創成科学研究科社会基盤デザインコース (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島2-1)

E-mail: makio.tu.19@gmail.com

³正会員 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授 (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島2-1)

E-mail: yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp

⁴正会員 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 教授 (〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1)

E-mail: mmatsuura@meiji.ac.jp

持続可能なまちづくりにおいては、既存制度や既得権を超えたシステム改革の必要性が唱えられている。このような根強い問題を乗り越えて社会を変革させていく方法論の一つであるオランダ発祥のトランジション・マネジメントは、フロントランナー（先駆者）の挑戦によって社会構造に再帰性をもたらすシステムの転換を促す手法である。本研究では、金沢市を対象にした自転車活用推進を図るトランジション・マネジメント・ワークショップの取組みの中で、探索・招聘したフロントランナーに着目し、その特徴を明らかにすることを目的とした。フロントランナーに期待される特性を想定して、招聘された人々の言説を分析した結果、フロントランナーらの共通点とともに、キーパーソンにおけるワークショップによる変化が明らかになった。また、招聘しているフロントランナーらに不足している特性が明らかになり、ワークショップの今後の運営に対する示唆が得られた。

Key Words : bicycle promotion project, transition management, front-runners, discourse analysis

1. はじめに

2018年策定された「自転車活用推進計画」は、自転車活用による観光振興、環境形成、健康増進、安全安心を4つの柱とし、既存の計画・政策と整合を図りながら、地域全体の振興につなげていくことを目的としている。そして、地方自治体において、地域の実情に応じた「地方版自転車活用推進計画」の策定が促進されている。しかし、自転車利用促進を進めるには、車中心に組み立てられたまちの構造や人々の意識を変革が鍵となることが多々あり、その実現に多くの地域が頭を悩ませているのが現状である。

このような政策の策定や実施段階において従来は、ステークホルダー（多様な利害関係者）の合意形成を図ることがプロセスとして重視されてきた。しかし、多くの場合、既得権を有するステークホルダーの強い抵抗や、頑強な既成制度・法律に阻まれ、合意形成を前提とした実現は容易ではないことが多い。

このような根強い問題を乗り越えて社会を変革させていく方法論の一つとして、トランジション・マネジメント（以後、TM）手法が提案されている。これは、オランダにおいて発祥した方法論であり、目指すべき未来に

向けて、ステークホルダー全体の合意形成を図るのではなく、持続可能な社会を実現し得るフロントランナー（先駆者）の挑戦的な取組みを小規模ながらも実践することで、社会構造に再帰性をもたらすシステムの転換を促す手法とされている。¹⁾

図1は、こうしたTM手法の概念図として用いられるトランジション X カーブである。将来のあたりまえの姿（右上）を目指して、無くすべきこと（左上）を明らかにし、試行していく取組み（左下）を進めることで、社会システムをXカーブ状に転換するという戦略を示している。

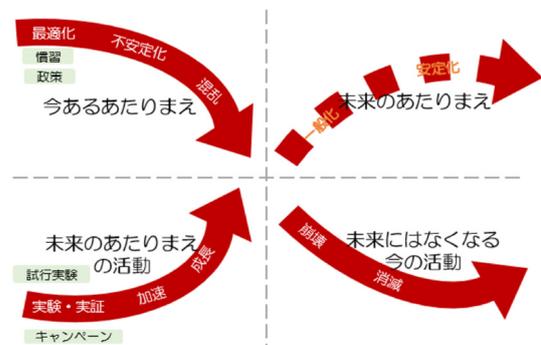


図1 トランジション X カーブ

本研究グループでは金沢市で自転車の活用推進を進めるためのプロジェクトを創生するため、TM手法の実践²⁾を進めており、その鍵となるフロントランナーを探索・招聘して、個別ヒアリング、ワークショップを実施している。本研究では、フロントランナーとして探索・招聘し、ワークショップに参加している人々に着目して、その言述の特徴を明らかにすることを目的とした。具体的には、フロントランナーに期待される特性を既存研究から整理、想定して先駆性特性の項目を提案する。さらに、石川県金沢市を対象とした自転車の活用推進のビジョンとプロジェクト創生のTM実践において、雪だるま式ヒアリングで探索されて、招聘された人々について、個別ヒアリングおよびワークショップでの言述をカテゴリ分析する。これによって、言述から見られるフロントランナーらの共通点とともに、キーパーソンにおけるワークショップによる変化を明らかにする。

2. フロントランナーに期待される要素

フロントランナーに期待される特徴を本研究では、先駆性項目と呼ぶこととする。ここでは、表 1 に示す14の項目を設定した。a～eの5項目は地域協働活動の分析から、活動の持続と成果に必要な要素を明らかにしている既往研究³⁾から、協働の中心となる担い手であるアクティビストが有した要素を抽出したものである。また、f～hの3項目は後に示す金沢市トランジション・マネジメントのフロントランナー探索において、紹介者を依頼する際に用いた説明である。さらにi～nの6項目は、トランジション・マネジメント・マニュアル⁴⁾で示されている要素である。

表 1 フロントランナーに期待される先駆性項目

先駆性項目	略称
a. 活動の契機となる問題を認識・定義する	問題定義
b. 具体的問題を含むアジェンダ（議論する課題項目）を設定する	議題設定
c. 活動の進展とともに、ガバナンス（管理・統治）が形成される	管理形成
d. フロントランナーの信念や思いを具現する	信念具現
e. 解決策が生成・特定化する	解決生成
f. 人の話をよく聞き、対話することができる	傾聴対話
g. 挑戦的な事業計画を始めている	挑戦実施
h. 挑戦的な事業計画を、始めようとしている	挑戦開始
i. ポジティブな考え方を持っている	ポジティブ
j. 逆境にも挫けず、前向きに活動できる	逆境活動
k. 問題解決に役立つ知識を有している	解決知識
l. 将来の状況を予測している	状況予測
m. 世間の現状を把握している	世情把握
n. 問題解決につながる可能性のある経験をしている	解決経験

3. 金沢市自転車トランジション・マネジメントの概要とフロントランナーの探索

1) 金沢市における自転車TM手法

金沢市では平成23年の「まちなか自転車利用環境向上計画」により、中心市街地において自転車の左側通行を促す自転車走行指導帯の整備や街頭指導を実施し、自転車関連事故が10年間で65%減少するという実績を挙げている。2018年の自転車活用推進計画策定を受けて、自転車の利用促進や自転車を活用したまちづくりについて、新たな視点からの取り組みが望まれている。そこで、本研究チームでは、TM手法を適用することで、2030年の金沢市まちなかエリアにおける持続可能な自転車の未来ビジョンと自転車活用プロジェクトの創生を通じた社会システムの転換を試みている。

金沢市TMワークショップでは、金沢市で自転車施策に取り組んでいる地球の友・金沢の三国成子・三国千秋夫妻、シェアサイクルまちなかの運営も担っている地元コンサルタント片岸将広氏の協力を得て、トランジション・チーム「自転車トランジション研究会」を構成し、このチームの議論において、「2030年の金沢市まちなかエリアにおける持続可能な自転車の未来とそれに向けての実践活動の発掘」をTM手法適用の目標とすることとした。

2) フロントランナーの探索とワークショップ開催

TM手法の担い手となりえるフロントランナーの発掘を行った。具体的には、上述の2氏を起点とする雪だるま式サンプリングによって、2030年の金沢で自転車利用に関連して活躍する可能性のある人物（フロントランナー）を探索した。その結果、合計21名に個別ヒアリング調査を行っている。ヒアリングは2019年の夏に実施している。このヒアリングをもとに課題を整理し、以降のワークショップ参加者を招聘している。

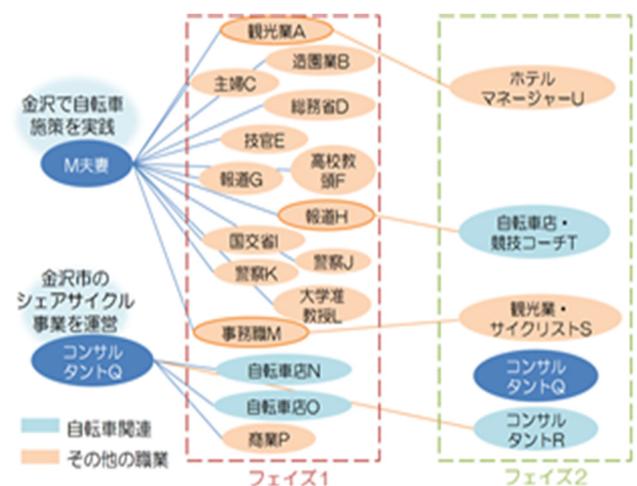


図 2 フロントランナー探索雪だるま式サンプリング

ワークショップ会合は2019年11月29日、2020年1月16日、6月5日の3回開催し、2020年7月、8月にはWSの成果をもとに個別ヒアリングを実施した。

第1回ワークショップは、招聘者から12名が参加して、現状の課題の共有がなされ、これをもとに将来ビジョンとして3つのテーマを抽出している。第2回ワークショップは12人（第1回とは一部参加者が異なる）が参加し、エラスムス大学トランジション研究所（DRIFT）所長ダーク・ローバック教授による講演を含め、3つの将来ビジョンのテーマのビジョンの共有と具体的なアクションについて議論した。第3回ワークショップでは具体的な活動を検討した。このWSは新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの実施となった。次いで、2020年7、8月に金沢市において、個別のヒアリングを実施している。

3) 分析対象フロントランナーと言述テキスト

本研究では、招聘されワークショップに参加していたフロントランナーのなかから表3の12名を抽出した。

言述分析は2回のヒアリングと3回のワークショップでの音声データを対象とした。12名のうち、11名は上記の5回の機会のうち3回以上に参加している。他の1名は3回目のワークショップに参加した大学生であり、初年度には探索されていなかった人である。ワークショップでの発言が前向きな内容であったことから分析に加えることとした。

分析対象の言述は録音されており、その録音から逐書きおこした情報をもちいて分析している。分析対象となった言述のテキスト量は表4に示すとおりである。

フロントランナーの先駆性項目に該当する内容が現れた発言を抽出して発言回数をカウントすることで、フロントランナーの個人による違いや着目した個人の変化を見つける方法をとった。

表3 分析対象者

No	性別	職種
1	男	市民団体
2	女	市民団体
3	男	コンサルタント
4	男	報道
5	男	行政
6	男	大学教員
7	女	会社員
8	男	自転車店
9	男	自転車店
10	男	商業
11	男	ホテル
12	女	大学生

表4 分析にもちいた言述テキスト

言述	実施時期	人数	テキスト数	テキスト/人
①ヒアリング	2019.8-10	8	18037	2255
①WS	2019.11.29	9	24093	2677
②WS	2020.1.16	10	20471	2047
③WS	2020.6.5	7	27833	3976
③ヒアリング	2020.8	5	75125	15025

4. フロントランナーの言述からみる特徴分析

1) 先駆性項目別の発言発出状況

5回の機会別、個人別のテキストをもとに、14の先駆性項目別に該当する発言を抽出し、その発言回数を整理した結果を表5に示す。表中の一は不参加者である。項目によって発言回数には偏りがあることがわかる。また、2回目の個別ヒアリングはテキスト数は多いが、対象者が限定されており、先駆性項目の発出が一部の人に偏って生じる状況が見られる。

表6は、表5をもとに5回の発言機会を合計して、先駆性項目別・個人別の1回あたりの発言回数として整理した結果である。項目別の1回・1人当たりの平均発言回数（左端列）に着目すると、「信念具現」「解決生成」の回数が多く見られ、次いで「問題定義」「世情把握」の項目、さらには「解決知識」「解決経験」といった項目が多く発言されていた。フロントランナーの紹介依頼に用いた「傾聴対話」「挑戦実施」「挑戦開始」の発言は予想に反して多くは見られなかった。

以下では、発言回数の多い項目について、特徴を考察する。

表6 先駆性項目別の発言発出状況

項目	パーソン												全発言/ 回数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
問題定義	1.5	1.3	3.0	0.5	2.0	4.5	2.0	3.0	2.8	2.0	2.0	2.0	2.3
議題設定	0.3	0.3	0.3	0.0	0.3	0.8	0.0	1.0	0.3	0.5	0.5	0.0	0.4
管理形成	0.0	1.0	1.3	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
信念具現	0.3	2.5	4.7	1.0	0.7	6.8	5.0	2.8	5.0	0.8	3.5	0.0	3.0
解決生成	0.8	1.5	2.3	0.0	1.3	4.5	3.0	4.0	4.8	5.0	5.0	2.0	3.0
傾聴対話	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5	0.3	0.3	0.0	0.3	0.5	0.0	0.2
挑戦実施	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.5	0.0	0.3
挑戦開始	0.0	0.3	3.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	0.5
ポジティブ	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1
逆境活動	0.0	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	1.5	0.0	0.2
解決知識	1.0	1.0	1.7	2.0	0.7	0.8	0.8	2.3	3.8	0.8	1.0	0.0	1.4
状況予測	0.0	0.3	0.7	0.0	0.3	0.8	0.3	0.8	0.3	1.0	1.0	0.0	0.5
世情把握	1.8	1.8	4.3	2.5	0.7	2.5	1.0	4.8	4.5	2.5	6.5	1.0	2.8
解決経験	1.0	1.0	0.7	1.0	0.0	1.0	2.8	1.0	1.3	0.3	1.0	2.0	1.1
全発言/回	6.5	12.0	24.0	8.0	6.3	23.3	15.5	20.5	24.5	13.0	23.5	7.0	15.9
参加回数	4	4	3	2	3	4	4	4	4	4	2	1	39

表5 先駆性項目別の機会別発言発出状況

項目	時期	パーソン											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
問題定義	①ヒアリング	4	0	-	0	-	7	2	4	3	4	-	-
	①WS	0	0	4	-	2	4	4	4	3	0	-	-
	②WS	0	0	1	-	4	3	1	3	3	4	0	-
	③WS	2	5	4	-	0	4	-	1	-	-	-	2
議題設定	①ヒアリング	-	-	-	1	-	-	1	-	2	0	4	-
	①WS	0	0	-	0	-	3	0	0	0	0	-	-
	②WS	0	0	1	-	0	0	0	1	0	0	0	-
	③WS	1	0	0	-	0	0	-	0	-	-	-	0
管理形成	①ヒアリング	-	-	-	0	-	0	-	1	1	1	-	-
	①WS	0	0	-	0	-	0	0	0	0	0	-	-
	②WS	0	3	0	-	0	1	0	0	0	0	-	-
	③WS	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-
信念具現	①ヒアリング	0	1	0	-	0	-	12	5	5	6	0	-
	①WS	0	1	7	-	0	6	5	5	4	0	-	-
	②WS	0	6	5	-	2	4	1	1	5	0	2	-
	③WS	0	3	2	-	0	5	-	0	-	-	-	0
解決生成	①ヒアリング	0	0	-	0	-	10	2	5	4	0	-	-
	①WS	0	2	4	-	1	1	2	0	8	9	-	-
	②WS	0	1	2	-	2	1	1	5	2	0	1	-
	③WS	3	3	1	-	1	6	-	6	-	-	-	2
傾聴対話	①ヒアリング	-	-	-	0	-	-	7	-	5	11	9	-
	①WS	0	0	-	0	-	0	0	0	0	0	-	-
	②WS	0	0	0	-	0	2	0	1	0	0	-	-
	③WS	0	0	1	-	0	0	-	0	-	-	-	0
挑戦実施	①ヒアリング	-	-	-	0	-	0	-	0	1	1	-	-
	①WS	0	0	-	0	-	0	0	0	0	0	-	-
	②WS	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	-
	③WS	0	2	1	-	0	0	0	0	1	0	0	-
挑戦開始	①ヒアリング	0	1	2	-	0	0	-	0	-	-	-	0
	①WS	0	1	4	-	0	0	0	2	1	0	1	-
	②WS	0	0	2	-	1	1	-	0	-	-	-	0
	③WS	0	0	2	-	1	1	-	0	-	-	-	0
ポジティブ	①ヒアリング	-	-	-	0	-	0	-	3	0	0	-	-
	①WS	0	0	-	0	-	0	0	0	0	0	-	-
	②WS	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-
	③WS	0	0	1	-	0	1	-	0	-	-	-	0
逆境活動	①ヒアリング	-	-	-	0	-	1	-	1	0	0	-	-
	①WS	0	0	-	0	-	0	1	0	0	0	-	-
	②WS	0	2	0	-	0	0	0	1	0	0	0	-
	③WS	0	0	0	-	0	0	-	0	-	-	-	0
解決知識	①ヒアリング	-	-	-	2	-	0	-	0	0	3	-	-
	①WS	3	0	-	0	-	1	1	3	7	0	-	-
	②WS	0	3	2	-	1	1	0	5	7	3	-	-
	③WS	0	1	3	-	1	0	0	1	1	0	1	-
状況予測	①ヒアリング	1	0	0	-	0	1	-	0	-	-	-	0
	①WS	-	-	-	4	-	-	2	-	0	0	1	-
	②WS	0	0	-	0	-	0	0	1	0	0	-	-
	③WS	0	0	2	-	0	0	-	1	-	-	-	0
世情把握	①ヒアリング	-	-	-	0	-	1	-	0	2	2	-	-
	①WS	4	0	-	0	-	5	1	7	4	0	-	-
	②WS	0	2	2	-	1	3	2	6	6	0	-	-
	③WS	0	4	4	-	1	0	0	1	1	0	1	-
解決経験	①ヒアリング	3	1	7	-	0	2	-	5	-	-	-	1
	①WS	-	-	-	5	-	1	-	7	10	12	-	-
	②WS	3	0	-	0	-	2	3	1	2	0	-	-
	③WS	1	1	0	-	0	1	0	3	2	0	-	-
解決経験	①ヒアリング	0	2	0	-	0	1	1	0	0	0	2	-
	①WS	0	1	2	-	0	0	-	0	-	-	-	2
	②WS	0	1	2	-	0	0	-	0	-	-	-	2
	③WS	0	1	2	-	0	0	-	0	-	-	-	2
解決経験	①ヒアリング	-	-	-	2	-	-	7	-	1	1	0	-
	①WS	-	-	-	2	-	-	7	-	1	1	0	-
	②WS	-	-	-	2	-	-	7	-	1	1	0	-
	③WS	-	-	-	2	-	-	7	-	1	1	0	-

2) 問題定義：活動の契機となる問題を認識・定義する

表5から問題定義に該当する部分を抽出した結果を表7に示す。この項目は他に比べ発言回数が多くみられ、多くのフロントランナーに共通して発言されている。日頃から身近の問題に敏感である特徴が伺われる。

共通して、よく見られた発言としては、「交通手段に関する教育が不十分であること」、「駐輪場の場所が分かりづらいことに加え、数も不足していること」などが挙げられる。

表7 「活動の契機となる問題の認識・定義」の発言状況

項目	時期	パーソン											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
問題定義	①ヒアリング	4	0	-	0	-	7	2	4	3	4	-	-
	①WS	0	0	4	-	2	4	4	4	3	0	-	-
	②WS	0	0	1	-	4	3	1	3	3	4	0	-
	③WS	2	5	4	-	0	4	-	1	-	-	-	2
問題定義	①ヒアリング	-	-	-	1	-	-	1	-	2	0	4	-
	①WS	-	-	-	1	-	-	1	-	2	0	4	-
	②WS	-	-	-	1	-	-	1	-	2	0	4	-
	③WS	-	-	-	1	-	-	1	-	2	0	4	-

3) 信念具現：フロントランナーの信念や思いを具現する

抽出表を表8に示す。信念の具現に関する発言も多くのフロントランナーにみられる。フロントランナーは日頃から、自転車活用推進やまちづくりに対して信念を持ちながら生活していることが示唆される。

共通して、よく見られた発言としては、「まちなかでの車の速度を下げ、子どもやお年寄りが安心して歩けるようになってほしい」や「交通手段に関する教育を充実させていくべきだろう」といった内容があった。

表8 「信念や思いを具現する」の発言状況

項目	時期	パーソン											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
信念具現	①ヒアリング	1	0	-	0	-	12	5	5	6	0	-	-
	①WS	0	1	7	-	0	6	5	5	4	0	-	-
	②WS	0	6	5	-	2	4	1	1	5	0	2	-
	③WS	0	3	2	-	0	5	-	0	-	-	-	0
信念具現	①ヒアリング	-	-	-	2	-	-	9	-	5	3	5	-
	①WS	-	-	-	2	-	-	9	-	5	3	5	-
	②WS	-	-	-	2	-	-	9	-	5	3	5	-
	③WS	-	-	-	2	-	-	9	-	5	3	5	-

4) 解決生成；解決策を生成・特定化する

解決生成の項目に関する発言（表9）は一部の参加者に多くの発言が見られる。これらのフロントランナーはまちの課題に対し、自分の中の解決策を持っていることが示唆される。

共通して、よく見られた発言としては、「駐輪場を新設すること」や「まちなかに学割を作る」といった内容があった。

表9 「解決策を生成・特定化する」の発言状況

項目	時期	パーソン											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
解決生成	①ヒアリング	0	0	-	0	-	10	2	5	4	0	-	-
	①WS	0	2	4	-	1	1	2	0	8	9	-	-
	②WS	0	1	2	-	2	1	1	5	2	0	1	-
	③WS	3	3	1	-	1	6	-	6	-	-	-	2
	③ヒアリング	-	-	-	0	-	-	7	-	5	11	9	-

5) 世情把握：世間の現状を把握している

世情把握の項目（表10）も比較的多くのフロントランナーに発言が見られる。自転車に関わる情勢や他地域の取り組みなどについての知識を有していることがわかる。共通して、よく見られた内容には、「Uber Eatsの自転車」などの他の県の状況を紹介する内容であった。

表10 「世間の現状を把握している」の発言状況

項目	時期	パーソン											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
世情把握	①ヒアリング	4	0	-	0	-	5	1	7	4	0	-	-
	①WS	0	2	2	-	1	3	2	6	6	0	-	-
	②WS	0	4	4	-	1	0	0	1	1	0	1	-
	③WS	3	1	7	-	0	2	-	5	-	-	-	1
	③ヒアリング	-	-	-	5	-	-	1	-	7	10	12	-

5) フロントランナーにおける先駆性特性の変化

ワークショップ進行に伴う先駆性項目の発現数の変化を見るため、第1回ヒアリングから第2回のWSまでの回あたり発言数に対して、第3回と2回目のヒアリングでの発言回数を比較して、発言回数が増加している個人別の先駆性項目を整理した結果を表11に示す。

表9 前半・後半の発言頻度が増加した人・項目

項目	パーソン											人
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
問題定義	↑	↑	↑	↑							↑	5
議題設定	↑								↑	↑	↑	4
管理形成			↑			↑						2
信念具現		↑		↑			↑			↑	↑	5
解決生成	↑	↑				↑	↑	↑	↑	↑	↑	8
傾聴対話			↑							↑	↑	3
挑戦実施		↑	↑						↑		↑	4
挑戦開始					↑	↑			↑			3
ポジティブ			↑			↑	↑		↑			4
逆境活動				↑							↑	2
解決知識				↑		↑	↑					3
状況予測			↑				↑	↑		↑	↑	5
世情把握	↑		↑	↑				↑	↑	↑	↑	7
解決経験			↑	↑			↑			↑		4

どの項目でも発言が増加しているフロントランナーが見られるが、特に解決生成、世情把握で増加しているフロントランナーが多くみられる。後半になって、具体的な解決策や実現可能な取り組みを話し合う中で、こうした発言が増えている様子が示唆される。

特に、後半に議論されている内容について、以下の2名から紹介する。

・市民団体の代表者

金沢の大学が郊外にあり、まちに若者があまりいないといった現状を他のフロントランナーたちから聞いたこともあり、大学生をターゲットにしていくべきではないかといった提言。具体的には、まちのりで学割を設けたり、コロナ支援として学生の交通費を補助したりすると良いのではないかと提案につながっていた。

・まちのりのコンサルタント

新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人観光客が激減したことで、各フロントランナーから、市内の住民と近県の人々をターゲットにしていくべきだといった発言を受け、住民の需要に合わせたサイクルポートの設置に取り組むといった発言につながっていた。

5. 終わりに

今回のTMワークショップでは自転車関係の職種や自転車愛好家だけでなく、普段の自転車を利用していないが活動をしている人物にも参加を募ったため、異なった経験から多様な発言が見られている。こうした様々な考えを持つフロントランナーが集まって話し合いを重ねることで、フロントランナー自身の思考に変化が見られ、先駆性のある項目に対する発言が増加する人々が生じていることが明らかになった。このようにフロントランナーは様々な知識を有し、自らの信念を持って先進的な行動をしていること、そして、その共有が更なる先駆性を高めるといった傾向が示唆されていると言える。

金沢市におけるトランジションマネジメントのプロジェクトは現在進行形で活動を行っており、参加者を増やしていく予定である。先駆性項目の分析で傾聴対話や挑戦の実施、開始といった発言が少なかったことを考慮すると、今後は、意見を集約し、協働を引き出し活動に発展させるフロントランナーも必要と考えられる。

謝辞：

本研究は科学研究費基盤研究B「自転車交通の真の活用推進へエビデンスベース型トランジション・マネジメント」(20H02278)の助成を得て実施している。また、金沢自転車トランジション・マネジメントの実施に当たって多大の協力を得た地球の友・金沢；三国成子・三国千秋夫妻，日本海コンサルタント片岸将広氏に謝意を表する。

参考文献

- 1) 松浦正浩：トランジション・マネジメントによる環境構造転換の考え方と方法論，環境情報科学，2017，46(4)，pp.17-22
- 2) 榎尾果歩，山中英生，松浦正浩，三国成子，三国千秋，尾野薫：トランジション・マネジメント・ワークショップによる自転車活用プロジェクト創生の試み，第61回土木計画学研究発表会・講演集，2020.
- 3) 小島廣光，平本健太：戦略的共同の本質，有斐閣，(2011)pp296-303.
- 4) Frantzeskaki, N., Bach, M., Holscher, K., and Avelino, F., (Eds), (2015), Urban Transition Management, A reader on the theory and application of transition management in cities, DRIFT, Erasmus University Rotterdam with the SUSTAIN Project (www.sustainedu.eu), Creative Commons. (松浦正浩訳：都市のトランジション・マネジメント -都市におけるトランジション・マネジメントの理論と実践の読本-, <http://www.mmatsuura.com/research/transition/Combined-20150319.pdf>)